



Think Globally! Challenge for your Career!

外国留学中間レポート



留学中のみなから、中間レポートが届きました!



2019 SPRING 発行



甲南大学国際交流センター

外国留学中間レポート 2019 SPRING

目次

アメリカ	ニューヨーク州立バッファロー校	
	経営学部経営学科 4年 和田 剛弥.....	2
	ピッツバーグ大学	
	マネジメント創造学部特別留学コース 3年 下辻 佳乃.....	3
	マネジメント創造学部特別留学コース 3年 吉田 善太.....	4
	ウイバー州立大学	
	経営学部経営学科 4年 住吉 沙絵.....	5
	ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム	
	文学部英語英米文学科 3年 樺山 綾.....	6
カナダ	ビクトリア大学	
	経営学部経営学科 3年 黒野 結加.....	7
	文学部英語英米文学科 4年 前垣 早紀.....	8
	文学部英語英米文学科 4年 藤木 翔真.....	9
	カールトン大学	
	文学部英語英米文学科 4年 泉本 健太.....	10
	経営学部経営学科 4年 松井 瑞輝.....	11
	レジャイナ大学	
	文学部英語英米文学科 3年 林 寧.....	12
イギリス	リーズ大学	
	マネジメント創造学部特別留学コース 3年 安藤 紬.....	13
オーストラリア	マードック大学	
	経営学部経営学科 3年 中内 綾音.....	14
韓国	漢陽大学	
	文学部社会科学科 3年 川平 舞.....	15
	東義大学	
	経済学部経済学科 4年 山口 一輝.....	16
台湾	東海大学	
	経済学部経済学科 3年 大和田 亜美.....	17

ニューヨーク州立バッファロー校（アメリカ）
経営学部経営学科 4年 和田 剛弥
【語学プラス交換留学】留学期間：2018年8月～2019年5月

10月31日 ハロウィンイベントに参加した際のクラスメートと



私は甲南大学に入学する以前から、留学をすることを考えていました。しかし、当初はどこの国に行きたいとも考えておらず、漠然とただ留学をしてみたいとだけ思っていました。大学二年生になったころ、留学をする際に必要な TOEFL iBT についての対策授業を受け始め、本格的に留学を考え始めました。留学について考えていくにつれ、自分が専攻している分野を学ぶにはニューヨーク州立バッファロー校が一番適していることを知り、選択するに至りました。私は語学プラス交換留学制度という、半期を語学科目に

専念し、残りの半期に専門科目を履修する制度を利用して留学をしました。この制度を選択したことで私は初めの半期で異国での生活に慣れることができ、専門科目を履修するころには自分のリズムで勉強をすることが出来ました。もし留学を考えている方が見てくださっていましたら、私は語学プラス交換留学をおすすめします。

留学先については、キャンパスの広さも学生の数も日本が比喩にならないくらい大規模で様々な他国の文化を体験することが出来ました。また、学内の設備も整っており、キャンパス内は基本的にシャトルバスで移動が可能で、とても便利でした。また、日々様々なイベントが学生によって開催されており、勉強に行き詰った時やリフレッシュをしたい時はイベントに参加することで気分転換するとともに他国の文化に触れることが出来ました。

また、留学中に様々なことを学びました。勉強についてはアメリカの授業は小さなグループに分けて自分の意見を共有することが多く、その際に自分の意見を発信することがとても大切であると感じました。一度、私が何も言わず黙っていた際にはないものとして扱われたこともあります。一方で、自分の意見を発信した際にはしっかり受け止めてくれました。また、他国の文化を学ぶことが出来たのはとてもいい経験であったと感じます。例えば、私の友人の一人が宗教上の理由で豚が食べられない為、一緒に昼食をとる際は彼を配慮し、豚肉料理の多い日本食や中華などは避けたりするようにしていました。このようにアメリカに来たことによって、自分の意見を持つと共に相手を尊重できるようになったと思います。

12月16日 バッファローのアメリカンフットボールチーム「Buffalo Bills」を NEWERA Stadium にて観戦



ピッツバーグ大学（アメリカ）
マネジメント創造学部特別留学コース 3年 下辻佳乃
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月



留学生活の半分以上が終わり、春学期が始まっています。前期とは違い、留学生向けのクラスを取るのをやめて、すべてのクラスを現地学生と受講しています。まだまだ文化の違いや言葉の壁に悩まされることもあります。何とかついていっています。特に難しいのはEnglish Composition Gender Studyのクラスです。Genderにフォーカスしたライティングのクラスなのですが、生徒全員が女性で、先生も女性なので、特にフェミニズムに焦点を当てています。今まで私は日本でフェミニズムや男女不平等、国際問題における女性の扱われ方について話し合う機会などほとんどなかったのですが、この授業ではそれらのトピックに関係のある論文や、新聞記事等を読んで授業内で話し合い、それに対するレスポンスペーパーも書いています。授業前の準備が多くて大変な授業ですが、留学生

が私一人だけなのでみんなが私の発言に注目してくれています。はじめはとても緊張してクラスメイトの前で自分の意見を言うことは難しかったのですが、先生にも相談してだんだん慣れてきました。メジャーペーパーは自分の好きなトピックを選べるので今頑張っています。友達に添削してもらったり、先生とも方向性について相談したりしながら時間をかけて書いているので、前の学期よりも自分のライティングが上達したと感じています。他の専門科目は特に問題なく受講できています。

生活面では、ASA (Asian Student Alliance) と JSA (Japanese Student Association) の活動を特に頑張っています。アメリカでアジア系アメリカ人として生きる難しさや、移民二世以降の家庭内の言語と文化のギャップについて考えるワーク



ショップに参加したりもしています。楽しいイベントももちろんありますが、まじめなイベントも勉強になります。先日はECAASU (East Coast Asian American Student Union) がピッツバーグ大学でワークショップを開いたのでそれにも参加してきました。私の友達はアジア系アメリカ人や、アジア圏の国とのハーフが多いので、よく友達とその話もします。日本にいたらきっと一生考えることはなかったと思うので私にとっては面白いです。

留学生活もあと二か月を切りました。始まったばかりのころは毎日日本に帰りたと思っていましたが、いつも友達が助けてくれました。その友達が今は私に転学を勧めてくれるほど仲良くなり、もう全員日本に連れて帰りたと思うほど大切な存在です。あと少しの留学生活ですが、勉強して、遊んで、充実させたいと思います。



ピッツバーグ大学（アメリカ）
マネジメント創造学部特別留学コース 3年 吉田 善太
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月



ここ、Pittsburghの地に降り立ってから、早くも8ヶ月の月日が経ちました。留学生活も残すところあと一ヶ月になってしまったわけではありますが、私自身は特に変化なく、毎日楽しい日々をここPittsburghの地で過ごしています。現在は、History of Jazz, Introduction to Western Art and Music, Jazz Improvisation1, そして Small Jazz Ensemble というクラスを受講しています。前の2クラスは座学形式の講義で、その名の通りジャズと西洋音楽の歴史について学びます。クラス自体はそこまで難しくなく、

自分の興味のある分野なので特に困っていることはありません。また、クラスメイトと Google Drive 上でノートを共有したりすることで板書の負担を軽減したりもしています。後述した2クラスは実践タイプのクラスで、これもその名の通り実際にクラスメイトとジャズを演奏するというものです。毎週課題曲が配布されて、その曲を練習して、クラス中にランダムに決められたメンバーで演奏します。ジャズにはしっかりとした譜面がないので、即興（ソロ）を交えながら、その場で判断して演奏しないといけないので、判断力と適応力が必要になります。私はドラムを担当していますが毎回新たな発見があってとても楽しいです。



生活面に関して、大きな変化はありません。強いというならば、週末や休みを使って極力Pittsburghに留まらずに、アメリカの都市を始め、どこかに足を運ぶことに尽力したことです。冬休みには、フランス、イタリア、ドイツ、アイスランドに足を運びました。また、アメリカ国内では、ニューヨーク、ボルチモア、ボストン、アトランタ、カナダ国内では、バンクーバー、モントリオールを訪れました。多くは一人旅であったため、いろいろなトラブルもすべて一人で解決しなければならず、英語力と、問題処理能力が鍛えられたように思います。大学での勉強はもちろん大切だとは思いますが、私はこの旅行を通して、様々なことを学びました。それは単にその土地の観光地だけではなく、歴史、文化、言語、人々などインターネットでは実際に触れることのできない物に直接肌で触れて、聞いて、感じたことで、自分の中での世界の認識が大きく変わり、物の考え方を大きく変えてくれたと思います。残り少なくなった留学生活ですが、思い存分楽しんで、終わりたいと思っています。

ウイバー州立大学（アメリカ）
経営学部経営学科 4年 住吉 沙絵
【語学プラス交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月



ユタに来て、もうすぐ7か月が経とうとしています。出発前は不安だらけでしたが、留学生活を始めてからはホームシックになることもなく、毎日楽しく過ごすことができます。

まず学習面としては、秋学期にESLの授業を受け、現在はESLと経済、マネジメントの授業を受けています。留学が始まった時点では、何を言われているのか聞き取ることができず、宿題の内容と期限を聞き取るのも精一杯でした。しかし現在では、現地の学生と同じように授業やテストを受けており、日本語で勉強したことの無い内容を英語で学んでいる自分に驚いています。日本では英語を勉強として捉えていましたが、留学先では英語は勉強ではなく、勉強する手段として使うため、日本にいた時よりも身近に、そして楽しく学ぶことができます。グループワークで自分の意見を言うことはまだ苦手ですが、伝えようとすればみんな聞こうとしてくれるため、思い切って話そうとする

気持ちを大切にしています。

次に生活面としては、日本クラブに所属してアメリカ人の友達たちと日本の文化を共有したり、日本語のクラスのチューターとして日本語を教えたりしています。先日は、日本に留学予定の学生を対象としたオリエンテーションを行いました。オリエンテーションでは、自ら作成した日本での身だしなみや基本的なマナーに関するガイドブックを配布し、日本とアメリカの文化の差について説明しました。オリエンテーションの準備をする際に意識したことは、実際に日本へ留学



したことがある学生に体験談を聞くことです。例えば、レストランで注文する際やお金を払う際に、どうすればいいかわからず、戸惑ったという話がありました。そこで、レストランやコンビニの店員とお客さんのやり取りを実際に再現し、どういう場面でどういう風に話せばいいのかを整理しながら説明しました。オリエンテーションの後、参加したアメリカ人の学生に「授業ではコンビニのやり取りまで学ばないため、とても役に立つ」と言ってもらうことができ、とても嬉しかったです。日本で実際に困った体験談を元に作成したことで、実用的でわかりやすいオリエンテーションを行うことができたと思います。



1年前の私には、現在のような充実した留学生生活を想像することができませんでした。このような充実した生活を送れているのは、周りの友人や日本クラブの仲間、日本にいる家族や友人などすべての人のおかげだと思います。周りの人に対する感謝を忘れず、残り時間を大切にしながら、さらに努力していきたいと思っています。

ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム（アメリカ）

文学部英語英米文学科 3年 樺山 綾

【奨励留学】留学期間：2019年2月～8月



私が参加している、ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラムはフロリダ州オーランドにある Walt Disney World Resort での就労体験と Valencia College での business management の受講、ディズニーが所有する寮での生活ができるプログラムになっています。私の職場は Disney's Animal Kingdom という4つのパークのうちのひとつで Quick food service をしています。7日間のトレーニング(earning my ears)を終え、1人で働くようになってから約1ヶ月が経ちました。同僚はほとんど CP と呼ばれるアメリカの大学からイ

ンターンシップに来ている学生で、トレーニングはもちろん同僚との会話、ゲストとの会話も全て英語で、聞き取れなかったり、言ったことが伝わらなくて悔しい思いをすることが多いですが、1ヶ月経ってやっと少し慣れてきて仲のいい同僚もでき、ゲストとの会話を楽しむ余裕もできてきて、楽しく毎日働いています。

授業は Valencia College の2人の先生による business management の授業と月1回の culture activity で成り立っています。毎週の assignment とオンラインコース、月1回のテストがあります。私のクラスは16人ぐらいで、日本人とコロンビア人で構成されています。もう1つのクラスは日本人とコロンビア人に加えラトビア人が1人います。プログラムが始まる前の事前講座でアメリカと日本のクラスの違いを学んでいきましたが、やはり実際に受けると日本のクラスとは全く違うのでどう受けたらいいのか戸惑う時もありますが、全てが新鮮で、私は日本のクラスよりもたくさんの人の意見が聞けるアメリカのクラスの方が好きです。



仕事は1日6～10時間を週5～6日で週に30～37時間です。授業は週に1日、私が住む寮で行われています。休日は週に1日と授業の前で、キャスト専用のサイトから休み希望を出すことも

できます。休みの日に洗濯をしたり、1週間分のご飯を作り置きしたり、友達とパークに遊びに行ったり、ショッピングに行ったり毎日忙しくて時間が経つのがあっという間です。寮と各職場(パークやリゾート)に加え、二つの大きなスーパーマーケット、ショッピングモールを繋ぐ無料のバスがあるので出勤も買い物も公共交通機関やUberなどを使わなくても簡単に行けます。またそのバスは寮に住んでいる人しか使えないので安全面もあります。寮も寮生以外は入れなくなっていて、24時間セキュリティがあるので寮の安全面もしっかりしています。



オーランドに来て約2ヶ月が経ちましたが全くホームシックにもならず、むしろここでの生活が楽しすぎて帰りたくないと思っているほどです。学生のうちにアメリカで様々な国の人と働くという貴重な経験ができる1日1日を大切に残りの4か月弱過ごしたいと思います。

ビクトリア大学（カナダ）
経営学部経営学科 3年 黒野 結加
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月



今までの人生で一番充実した毎日を現在ビクトリア大学で送っています。カナダに来てからの7カ月はあっという間でしたが、とても濃い毎日でした。カナダに来てから涙を流したことが一度だけあります。それは言語の壁によるものでした。カナダに到着して言語学校に3週間通った後、9月からは交換留学生として、現地学生と共に寮で生活しビクトリア大学の授業を受け始めました。新学期がスタートし、沢山の現地学生の友達ができ、中でも3人の仲の良い友達ができしました。私を含めた4人で毎日ご飯を食べ、一緒に勉強をし、楽し

く過ごしていましたが、やはりカナダ出身の3人では話している内容が理解できないことが多く、何度も話の内容を聞こうとも、分からない単語が多すぎてそれらを聞けずに、ただ会話の雰囲気壊さないように自分も話を分かっているフリをすることが多くありました。みんなが楽しそうに笑っているのに、自分だけ話が理解できず、一緒になって笑っているフリをするのが一番つらかったです。理解できているフリをするのはよくないと分かっているにもかかわらず自分に腹が立ち、一度それで涙しました。それから、それら全てをそのうちの1人の友達に打ち明けました。彼女が、いつでも何かあれば聞いてねと言ってくれた時は



本当に救われる思いでした。それからは、話を分かっているフリをするのをやめ、できるだけわからないことは聞くようにしました。徐々に話が理解できないことも減っていき、今ではほとんど理解できるようになりました。学校の授業については、初めの頃、先生の話す内容が2割も理解できない授業があり、課題も多く、毎日授業についていくのに必死でした。普段の授業に関しては、時に友達に助けてもらいながら頑張り、今では授業内容も8割以上は理解できるようになりました。これまでの7カ月のうちの前半は色々悩み辛いこともありましたが、けれど12月ころからは授業の内容も、友達との会話も上手く理解できるようになり、毎日が本当に楽しく過ごせています。留学生活も残り2カ月となりましたが、悔いの残らないように留学において達成しようと思った目標を全て達成できるよう最後まで頑張りたいと思います。

ビクトリア大学 (カナダ)
文学部英語英米文学科 4年 前垣 早紀
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月

カナダにきて7か月が経ち、こちらの生活にもだ
いぶ慣れてきました。Winter termを終え勉強の仕
方や生活にもずいぶん慣れました。

Winter termの後半はreading breakという約1
週間の休みがあり、language partnerの人が地元
を案内してくれました。車でしか行けない場所な
ども案内してもらい、自分の住むバンクーバー
島を散策することができて楽しかったです。

また、留学が始まってすぐはカナダ人のルーム
メイトの言っていることを聞き取れないことがあ
り、話すことに消極的になっていましたが、わか
らないときは聞き返すなど積極的に会話すること

を心掛けました。その結果今では、今日あった
出来事や旅行のことなどいろいろなことを話す仲
になれました。



クリスマスには、ルームメイト全員で部屋の飾
りつけをしました。カナダ人の子がクリスマスツ
リーやライトを家から持ってきていたので、それ
を飾ったり、窓なども飾りつけをしました。

Spring termに入り、ルームメイトが一人入れ替
わりました。Winter termは特にトラブルもなく生
活していたのですが、新しいルームメイトが入っ
てきてからは、文化の違いなどからシャワール
ームの使い方やキッチンの使い方などで少し問題が
発生しました。ですが、spring termが始まって1
か月が経ったころにルームメイトみんなで話し合
いをし、生活する上でのルールなどを再確認するこ
とで、問題を解決することができました。いろん
な国からきている留学生や現地生とともに生活す
ることは、新しい発見などがあり楽しい反面、文
化の違いなどを理解する難しさも感じました。

また、spring termはwinter termより1科目多い
4科目履修しています。とっている授業は毎週要約
の課題があったり、academic writingの課題があ
ったりなどwinter termよりももう1段階上の授業
をとっている感じがします。特に要約は苦手です
が、試行錯誤しながら取り組み、教授によく頑張
っているとほめていただくことができました。ま
だまだ、文法ミスなどにはありますが、少しでもミ
スを減らして、期末では今までで一番良い成績を
とれるように努力したいと思います。残り約1か
月の留学生活ですが、自分のできることをやり切
れるように頑張りたいと思います。



ビクトリア大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 4年 藤木 翔真
【交換留学】留学期間：2018年8月～2019年4月



3月に入り留学生活は残すところ約2か月となりました。今日までの生活を振り返ると短かったような気がします。帰国の日が近づくにつれて、日本を懐かしむ気持ちとカナダの景色を見られなくなる悲しさの両方を感じます。今回の中間報告書では、生活面と学習面を報告しようと思います。

生活面：

こちらに来てから約7か月が経ち、夏、秋、冬の3つの季節を過ごしました。カナダということから留学先であるビク

トリアの冬は極寒になると思っていたのですが、そんなことはなく冬の間は日本の冬服でも十分な寒さでした。しかし、2月の中旬には大雪が降り、学校から休講の知らせが出されたこともありました。3月9日現在はだんだんと暖くなり、日差しが強い日は春の季節がやってきたなと感じます。また、食事について僕の場合は日本食が恋しくなることが非常に多かったです。この留学生活で一番つらかったことの一つでもあります。日本食レストランは多く存在するのですが、こちらの人向けにアレンジされているようで、あまり美味しいと思うことがなかったように思いました。

学習面：

春学期もあと少しで終了するのですが、課題が多く大変です。今も課題に追われている状況です。基本的に各授業で、中間課題と期末課題としてエッセイを提出しなければいけません。僕の場合、エッセイを書くのが苦手なまままだ慣れていないので多くの時間をかけないとまともな物が書けないので本当にしんどいです。また、授業の予習として、大量の資料を1日で読んで来いと言われることも結構多いので、常に勉強のことが頭から離れません。学年が上がるごとに授業が難しくなる上に、提出物の難易度も上がるので、本当にこちらの学生には頭が上がらないなと感じました。カナダの大学を卒業することは非常に難しいことだと身をもって体感しました。



残すところ2か月となりましたが、残りの日々を後悔なくこの留学生活を終えられるように頑張ろうと思います。

カールトン大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 4年 泉本 健太
【交換留学】留学期間：2018年9月～2019年4月



留学も残すところ1ヶ月弱となってしまう終わりに近づいてきました。留学を通して、様々な困難と耐えながらも問題を解決していくことに苦勞しました。留学に行く前や留学に行ってから最初のセメスターでは英語を学ぶのではなく、その自分が受けた科目に集中することを意識していました。けれども、その履修した授業というのは、自分の英語力を遥かに上回るものであり、ついていくことも危ういものでした。なので、勉強に集中できない日々や留学に来ていても自分の部屋で宿題や本を読む日々が続きました。それでは留学に来た意味が全くないので、部屋の外に出てイベントに参加することや人と多く話すことを意識しながら生活する日々。挑戦してみたのはいいもののまたここでも壁にぶつかってしまいました。日本人同士で話すとなるとあんなに簡単に会話を進められるのにも関わらず、英語になると全然できないという壁です。

そこで思ったこと考えたことは、英語力が全然足りないからに違いない、ということでした。“でも、人によっては会話を進めることもできている、それじゃあ何が問題なんだ。”と考える毎日の生活。そんな中でヒントになったのがYouTubeのひとつのチャンネルでした。ここでは名前を出しませんが、内容というのは、どうすればコミュニケーション能力を上げる事ができるのかというものでした。そんなの怪しいと思う方もいるかもしれませんが、科学的に支持された実験だったので完全に信用はできないものの、一度挑戦してみる価値はあるなと思い、やってみることにしました。すると今までよりも簡単に会話をする事ができること

に気づき、それを実践する毎日を今でも送っています。

ここで伝えたかったのは、会話する上で英語力が絶対的な原因ではないということです。文化的な違いによるものなのかは確信がないのでわかりませんが、日本語と違った会話の仕方をするので、それを発見することも大事であるということ。この問題を通して、困難にぶち当たれば、解決するための方法を探るといふことの大切さを学ぶ事ができました。もっと留学に早くこれば、もっと早くこのこれを実践する機会が増えたのかなと考えたりもしました。けれど、これからこれを実践することによって、その問題も解決します。残りの留学生活では、それを大切にしながら生活していきたいです。



カールトン大学（カナダ）
経営学部経営学科 4年 松井 瑞輝
【交換留学】留学期間：2018年9月～2019年4月



カナダに滞在した期間も半分を超えあと少しとなりました。前半のタームではこちらの習慣に慣れたり英語についていたりするので精一杯だったのが嘘みたいに今ではここの生活を楽しむことができおり、帰国が迫ってきていることを考えると辛いです。大学のあるオタワを出て友達と旅行することもありました。海外にきたのがこの留学が初めてと

いうこともあり、全てが新鮮な経験でした。モントリオールやトロント、年末にはニューヨークにも行きました。テレビでしか見たことがなかった景色や建物を実際に目の前で見ることができ、非常に感動しました。

楽しかった思い出がたくさんある一方、様々な問題にも直面しました。一番の問題はルームメイトとの文化の違いです。カナダでは今年、大麻が合法になりました。アフリカ人のルームメイトは部屋の中でも吸っている時が多々ありました。私はその大麻の匂いを知らず、我慢して過ごしていましたが、私の友人の一人に教えてもらったことでルームメイトと話し合いをし、最終的に部屋での大麻の使用をやめてもらうことができました。日本と違い、自分の意見をはっきりと相手に言わないと伝わらないということを学びました。また吸っている人達を間近で見えてきたことで、今まで以上に薬物への危機感が高まったような気がします。日本の路上喫煙率の低さも感じられ、健康に対する意識の高さを再認識しました。

さらに、国外で生活したことで日本の良さに気付くことができました。例えば、カナダの交通機関は時刻表通りに来ることなどほとんどありませんでした。日本では時刻表通りに1分の遅れもなく来ることが当たり前でしたが、それは素晴らしいことなのだと思います。日本はとても恵まれている国だということがわかりました。その上、こちらでは寮生活をしているため、家族のありがたみを痛感しました。朝起きたらご飯があるのが当たり前であったり、洗濯、掃除が出来たりしていたのが普通の生活とは違い自分で一からしなければなりませんでした。よく言えば、自由に出来ますが、自分の行動の全てが自己責任となります。いい経験をできているのではないかと思います。人として成長して帰ることができればいいなと思います。



レジャイナ大学（カナダ）
文学部英語英米文学科 3年 林 寧
【学部等認定校留学】留学期間：2018年9月～2019年4月

「旅行では味わえない、貴重な体験をすること」



私は元々、カナダに数年住んでいたりと、年に1～2度家族に会いに数日遊びに行ったりしていましたが、いつもの旅行気分でのカナダと20～30ヶ国から学生が集まる大学に通う事は、全く違いました。

カナダは教育に力を入れている国柄で、制度や施設も充実しているのを知っていましたが、大学に通う事で身をもってこれらを感じました。

バンクーバーやトロントといった都市からは離れて居る、数年前まで高齢者が一番多かった、レジャイナという州に留学という事で、最初は少し不安がありましたが、2019年に入ってから大学と家以外足を踏み入れていないぐらい、大学の設備や環境が充実しています。例えば、学校のジムやプール、5階のフロアがある図書館、勉強スペースやインターナショナル学生によるイベントも沢山あり、大学内だけで、日々新しい事を学び知る機会に恵まれています。

今は楽しく厳しい練習をチームメイトと頑張りフットボールゲームなどで活躍していますが、アジア人が一人もいなかったチアリーディングのオーディションを二日間一人で受けに行ったことや、言葉の壁がある中、練習に参加したり、厳しすぎる練習に何度もやめようと思った中、続けた自分がいます。この経験から、行動力、忍耐力、そして継続力が鍛えられました。自分が積極的に行動すれば、必ず受け入れてくれる人が見つかるという事を学びました。辛い苦しい時と向き合うことをやめず、少しずつ乗り越えていった経験は、何よりも自分自身への自信に繋がり、今後自分の力を信じてい



ろんなことに挑戦したいと思えるようになりました。

今日までレジャイナ留学を通し、たくさんの刺激を受けたり、さまざまな国から来ている生徒たちからいろいろな価値観や考え方を学び、視野が広がったのを実感しています。

日本とはまた違う時間の流れの中、豊かな大自然に囲まれ、ゆったりとした環境で学べる事が出来るこの環境に、残り数ヶ月に感謝しながら過ごしていきたいと思っています。

近々留学を考えている人も、いつか留学してみたいと思っている人も、まずは気軽な気持ちで、KIECの資料を手にとってみるところから始めてみてください。



リーズ大学（イギリス）
マネジメント創造学部特別留学コース 3年 安藤 紬
【交換留学】留学期間：2018年9月～2019年6月



9月末からリーズで暮らし始め、留学も残すところあと3か月となりましたが、4月はイースター休暇になるので実質授業があるのはあと2か月です。イギリスは寒いと聞いていましたが、特に雪が積もることもあまりなく、2月下旬は15度を超える春のような暖かい日が続くこともありました。そんな最近から少し前までのこちらの生活を報告したいと思います。

勉強に関しては、私が履修したモジュールの教授の方々はとても親切で、分からないことがないか、不便な思いはしていないか聞いてくださる方が多いため、特に苦痛に感じることなく後期は週に3日学校に通っています。授業は、やはり分からない単語が立て続けに出てくると混乱しますが、基本的にパワーポイントを使用した講義になるので、口頭で話されたことと合わせて理解することができます。

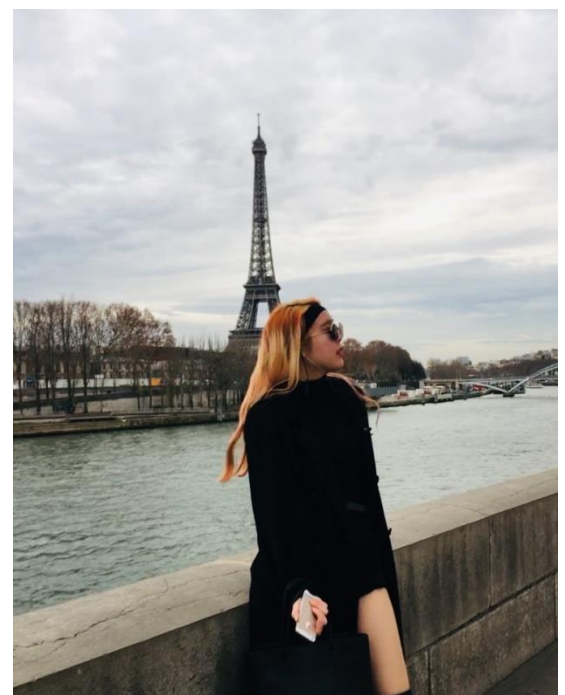
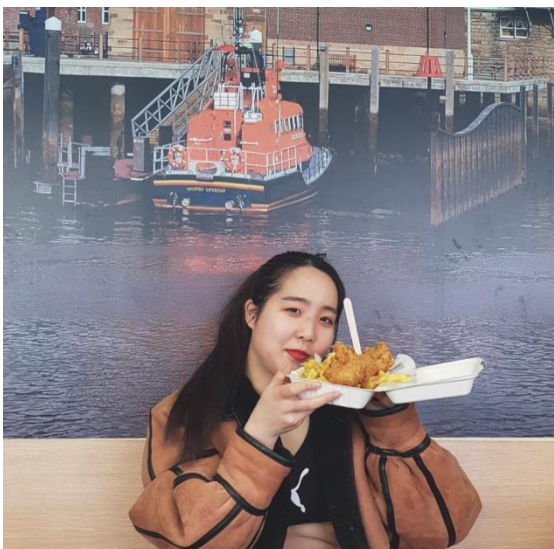
ただ一点問題なのが課題です。追い込まれないと何事も手につかない性格なので、2000文字程度のエッセイを締切前日までため込んで、結局死にもの狂いで書いてぎりぎり提出という良くないことを前期にしてしまったため、後期はいつどんな量のエッセイが提出なのか把握し計画を立てるようになりました。一つ当たりのウェイトの大きな授業しか履修しておらず課題のエッセイは基本的に1500～2000文字なので、信憑性のあるリソースから迅速に適切な情報を収集する能力がとても重要です。

生活面では寮の問題が精神的に大きく影響してきました。6人で2つのバスルームと1つのリビングルームを共有していますが、自分がしたことに責任を持つ自己管理能力がまだないメンバーが多く、様々な局面で我慢し、できる限り奉仕の精神を持って生活していました。しかし、伝わらない人には本当に何も伝わらなかったもので、性善説派の自分でしたが、他人にあまり期待はせず、自分がこれは絶対に侵害されたくないというものは完全に隔離して自分のことに集中して生活していると随分楽になりました。酷い時には、イギリス人だから、と思って

しまうこともありましたが、世界中どこでも良い人と悪い人がいるものなので良くも悪くも諦めるという能力を得た気がします。

そんなつらい時に頼ることができる友達の存在に感謝することが多くなりました。病んでしまいそうな時も、こちらで仲良くしている友だちとスポーツをしてから美味しいごはんを食べに行ったり、別の大学に留学している友だちが電話をかけてきてくれたりと何度も助けられたと思います。他の大学と比べて休暇が長く、ヨーロッパ中を安価で旅行できることもとても気晴らしになります。冬休みはフランスとマルタに行きましたが、イースター休暇にはスイス、ギリシャ、イタリア等に行く予定です。

長い長いと思っていた留学も気づけばあと少ししか残っていないので、自分にできる限りやりたいことをして日本に帰国したいと思います。



マードック大学（オーストラリア）
経営学部経営学科 3年 中内 綾音
【語学プラス交換留学】留学期間：2018年10月～2019年6月

ロットネスト島にて。クオッカとツーショット



アンテナがすべて立つことはあまりなく、寮内であってもまったく通信が届かないこともたまにありますが、学校内と寮内では別のWi-Fiを使うのですがどちらも通信不備が多いです。

【マードック大学について】学内施設についてですが、とても充実しています。特に気に入りは図書館とブッシュコートと呼ばれる広大な芝生エリアです。図書館内にはサイレントエリアとバズエリアと分かれており、その日の気分によって場所を変えることが出来、また24時間利用が出来る場所もあるので課題をこなすために夜遅くまで滞在しています。ブッシュコートは本当に広く、授業の合間やその後にその場でクッションを拾いのんびりするのに最適です。加えて各学部生専用のラウンジがあり、規模はあまり大きくありませんが冷蔵庫・電子レンジ・給湯器などがあり便利で愛用しています。

【授業について】前期の語学部分ではみっちり英語に浸った三ヶ月半でした。この期間のおかげでずいぶんと会話をするのに対して躊躇を覚えなくなりましたし、この期間がなければきっと私は後期の交換部分は今のようにスムーズに過ごせていなかったと思います。EAP2に移った当初は情緒が不安定で担当の先生やクラスメイトたちにはとても迷惑を掛けたかと思いますが、言いたいことがうまく伝えられない私でも彼らはあなたの頑張りや私がよく知っているわ、と慰めてくれ今となつては大事な友人達です。全員が英語を母国語として習得していないからこそ理解できたこともあったかと思えます。授業内容はIELTSに沿ったカリキュラムが組まれており、馴染み深かったですがレポートの書き方にはとても苦労しました。おかげで現在後期の段階でレポートを書くことに苦はありません。現在の後期の交換部分ですが、日本人交換留



EAP2のクラスメイトたちと。
修了式に浴衣を着ていけば喜んでくれました。



キングスパークにて。友人達と

学生向けに授業リストが組まれておりその中から3つ好きなものを選択する事が出来ました。私は現在、インターナショナルの生徒のための英語中心の授業、アジアンセンチュリー、フォトグラフィーの三つを取っています。甲南大学との単位交換のことも考えてビジネス関連のものを一つ取りたかったのですがあいにく内容が見合わないため断念しました。しかし、どの授業も楽しく先生方に授業について行けないもう少しゆっくり喋ってくれないだろうか、と打診をすれば翌週から気を遣ってくれるなど自分から発言していくことが大事なのだと改めて認識しました。レクチャーやワークショップは確かに大変ですが、事前にしっかりとリーディング課題を読んでいれば発言は出来るのであまり苦手意識はありません。それでも分からないところがあればクラスメイトや先生方、また森山先生が見繕ってくれたバディ達に聞くなりしています。

授業や身の回りのことをすべて自分でしないといけない生活がはじめてなので、そこそこ大変ですが、スタディブレイクにはロットネスト島に行ったり、お気に入りのフリーマントルに行ったりとのんびり出来たため大変よかったです。

漢陽大学（韓国）
文学部社会学科 3年 川平 舞
【交換留学】留学期間：2019年2月～12月



今年の2月末から12月まで約10か月間、韓国の漢陽大学に留学しています。韓国に来て約1か月が経ちました。留学生活にも慣れ始め、楽しい生活を送っています。今学期は韓国語の勉強に集中しようと思い、学科の授業は取らずに語学堂の授業のみ履修していますが、私は3級のクラスから始めることにしましたが、少し難しいと感じる部分も多いです。同じクラスメイトには日本、中国、台湾、カナダ等様々な国から来た人がいて、お互いがお互いの国について興味があり休み時間にも質問や話すことが多くクラスの雰囲気はとて

も良いです。意思疎通のためには韓国語を使わないといけないので、マラギの練習にもなるし最初の学期がこのクラスで良かったです。また、同じ外国人ということもあって韓国の方と話す時より気軽に話せるなど私は感じます。

また、交換留学生数人につき1人の韓国人がサポート的な役割でつく、HY-Buddy という制度があります。私のバディは来学期から日本に留学の予定がある方で、週に一度言語交換の時間を作っています。その時間にも発音で気になることや文法について質問したり、会話をしたりして楽しい雰囲気でも言語交換の時間を設けています。バディの活動も月に一度あり、私たちのグループは3グループ合同でしているのでにぎやかで楽しい活動になっています。先月は広蔵市場に行ったり昌慶宮で韓服を着たりと韓国らしい文化体験ができました。

今は韓国に来て1か月ですが、言語の壁にぶつかる部分も多くその度頑張ろうという気持ちが大きくなります。語学堂のある国際館ではメンタリングという一対一で、30分間会話の練習ができる制度もあり、何度でも申請できるため続けていきたいと思っています。

最初は韓国語を話すこともままならなかったですが、少しずつ成長できているのでは無いかと思います。自分から言語交換の場を設けてみたり、クラスメイトに話しかけてみたり積極的に行動していくことで留学を終えるころには後悔のない留学生活にしたいと思っています。



東義大学（韓国）
経済学部経済学科 4年 山口 一輝
【交換留学】留学期間：2019年3月～12月



私が韓国に留学に来て約一ヶ月が経過しました。来た当初はとても寒かったのですが桜も咲きようやく春が来たという風を感じています。

3月4日から授業が始まり生活にも慣れてきたと感じています。韓国人の他、様々な国の友達がたくさんでき、とても充実した日々を送っています。私は充実した生活を送るために心掛けています。それは勉強も遊びも全力で取り組むことです。

まずは勉強です。授業は毎日9時から13時に語学堂で韓国語の授業を受講しています。授業はすべて韓国語で行われ、クラスは日本

人が一人で中国、ベトナム、モンゴル人がいます。先生を中心に授業が進められペアワークやグループワークもしたりし、とても楽しい環境で授業を受けることができ、また刺激もたくさん受けています。授業で分からないことがあると隣にいる友達が教えてくれるのでとてもいい環境です。その他にも日本語学科の授業を受講しています。学生で分からないことがあると韓国語で教えたりもするので私自身の韓国語の上達にもなっています。どの授業もいい環境でできているので楽しいです。

その次に遊びです。韓国人の友達を作りたい、韓国語で会話したいと思いサークルにも入りました。そこで韓国の文化を直接体験することができ色々な経験をさせてもらっています。私が思っていた以上に日本に関心を持っている人が多く友達から積極的に話しかけてくれます。日本語や日本の文化を教え、韓国からみた日本のことを教えてくれるので日本を知る機会も沢山あります。とても恵まれた環境なのでこのサークルに入ってよかったですと感じました。



韓国に来て感じたことがあります。それは上下関係が厳しいということです。自己紹介をするとすぐに年齢を聞かれます。日本も上下関係は厳しいですが韓国はそれ以上だと感じました。その他に勉強が熱心だということです。以前から勉強をよくする国だと知っていましたが予想以上に熱心で私自身も沢山の刺激を受けています。

最後に、これからも韓国語の勉強を続け更にレベルアップしたいです。また、友達を沢山作り交流を深め色々な体験をしてみたいです。体調には十分に気を付け、出会いを大切に充実した日々を送れるように頑張っていきます。

東海大学（台湾）
経済学部経済学科 3年 大和田 亜美
【交換留学】留学期間：2019年2月～6月



台湾に来てもうすぐ2か月経ちます。生活で特に困ることもなく毎日充実した日々を過ごしています。

最初は挨拶や自己紹介などの簡単な中国語でしか話すことができませんでしたが、1か月経つと耳が慣れ、段々自分の意思を伝えることもできるようになりました。台湾に来てびっくりしたことは、バイクがとても多く日本では人が優先なのに台湾では容赦なく速いスピードでバイクが目の前を通り過ぎるので交通にはとても注意するようになりました。台湾の大学では寮生活で、私は4人部屋で生

活しており、私以外は中国大陸から来た交換留学生です。ルームメイトたちと毎日学校であった出来事を話したり、授業で理解できなかった文法や単語を教えてもらったりするので学校以外でもほとんど中国語で生活しています。

留学前は期待と不安でいっぱいでしたが現在は不安もなく伝わらなくても諦めず中国語を使って話すことができるようになりました。

日本ではアルバイトをしていたため学校が終わってからはあまり時間がありませんでしたが台湾に来て以降、日本よりも集中して勉強できる時間が増えました。

私は午前中に中国語の授業があり、週に専門科目を2科目受講しています。1つは中国語で日本の国際関係を学ぶ授業で、もう1つは英語で台湾の歴史を学ぶ授業です。どちらも日本語を使わないため受講当初は聞き取ることの出来ない単語や文法がほとんどでしたが最近は段々と理解することができるようになりました。

週末は中国人や台湾人の友達と出かけたり、勉強をしたりして過ごします。私の留学先は台中市というところにあり、バスが10kmまで無料なので移動にはほとんどバスを使っています。

残り約3か月とあっという間に時間が過ぎていくので少し戸惑っていますが、悔いなく留学生活を終えることができるように新しいことにたくさん挑戦し、今よりもっと積極的に交流していきたいです。

そしてせっかくの機会なので台湾の有名な観光地にも訪れ、身に着けた中国語で旅行もしたいと思っています。

